

人材養成目的【学部】

法学部	法学部は、法的思考及び法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断することのできる人材の養成を目的としています。
法学科	法学科は、いかなる社会・組織にあっても、その構造を理解し、構成員として多様な役割を果たすことのできる人材の養成を目的としています。
経営学部	経営学部は、国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的とします。
経営学科	経営学科は、経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的としています。
国際経営学科	国際経営学科は、国際的な経済・経営活動に欠かせない高度な専門知識、語学力、情報処理能力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。
経済学部	経済学部は、経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成を目的とします。
経済学科	経済学科は、理論・歴史・政策の研究過程を通じて、経済・社会を深く分析できる自立した人間を養成します。
産業社会学科	産業社会学科は、体験型・実践型の科目を豊富に含む経済学研究の過程を通じて、現代社会に活力を与えられる自立した人間を養成します。
理工学部	理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とします。
数学科	諸科学の基本的「言語」ともいえる数学に対する期待は、数理科学とコンピュータの急速な発達によって、現在では自然科学、工学だけでなく、社会科学や人文科学の世界にも大きくなりつつあります。このような社会からの要請にかなった卒業生を送り出すために、数学科では、まず数学を基礎からきちんと学ぶことを第一に考えています。さらに、柔軟で論理的な思考力や数学に対する直観力を養いながら、真に数学の魅力を知ることができる人材の養成を目的とします。
情報工学科	産業や社会の様々な分野で情報技術者として活躍できるように、情報数学、コンピュータ基礎、プログラミングなどの「情報処理技術の基礎」を修得した上で、以下のプログラムを通して、1つ以上の応用分野に関して体系的に修得し、かつ、自らが解決すべき課題を理解し、解決策を探索し、実践できる能力を身につけた人材を育成します。 (1)情報通信プログラム:情報を交換する分野を扱う。伝送路を介して情報を高速に伝える方法や、ネットワークを介して情報を確実、かつ安全に交換する仕組みが理解できる。 (2)情報システムプログラム:情報を利用する分野を扱う。情報を取得するためのハードウェアとそれを利用するためのソフトウェアについて、その両方の仕組みが理解できる。 (3)情報処理プログラム:情報を処理する分野を扱う。基本ソフトウェアをはじめとするソフトウェアの原理や、情報管理、アルゴリズム、知識情報処理の方法論が理解できる。 (4)情報メディアプログラム:情報を表現する分野を扱う。画像・音・言語などのメディアから情報を抽出する仕組みや、それらを加工して利用する方法が理解できる。
電気電子工学科	電気電子工学科は、「自然との共生、人類の発展と福祉への貢献を常に意識した、確固とした基礎学力を持ち、いかなる場面においても働くことを厭わない実践力に富んだ、チャレンジ精神旺盛な技術者を育成することを目的とする。」との教育理念の下、基礎教育を重視しつつ、特に電気エネルギー、電気電子材料等関連分野と通信、計測・制御、情報処理等関連分野に貢献できる人材の育成を目的としています。

材料機能工学科	材料機能工学科では、広い視野と正しい倫理感をもち、新材料の開発やその応用・製造に携わる科学技術者として社会に貢献できる人材の育成を目的としています。
応用化学科	応用化学科は、化学反応や分子の構造変化から成り立っている諸現象を化学的センスに基づいて理解できる人材の育成を目指します。そのうえで、精密にデザインされた物質の設計やその性質を原子・分子レベルで解明し、社会や産業の発展に役立つ付加価値の高い物質を開発できる創造性豊かな人材の育成を目的としています。
機械工学科	機械工学科では、困難に打ち勝てる知的体力を持ち、わが国の競争優位である、ものづくりに代表される科学技術応用力をさらに洗練させ、環境保全、エネルギー有効利用、高度情報化の新しい波に適合した技術を創造する能力を持ち、社会に貢献できる機械技術者の育成を目的としています。
交通機械工学科	交通機械工学科は、自動車、航空・宇宙機および鉄道車両などの「交通機械」に軸足を置きながら、時代の要求に呼応すべく「知的ものづくり」を目標に、ハード面のみでなく、ソフト面も重視した視野の広い教育・研究を目指します。最近では、高度な技術を用いてより高性能な交通機械を作ればよいというだけでなく、安全性・再利用を含めた環境や福祉などを十分に考慮した「ものづくり」が急務となってきている。特に「交通機械」は、人命に大きく関わっているため、交通機械工学科は、機械一般の基礎知識を教育するだけではなく、創造力と人間性豊かなエンジニアの養成を目的としています。
メカトロニクス工学科	<p>メカトロニクス工学科育成の技術者像は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術者として自立した倫理観と社会適応性を有し、物事を客観的に議論できる能力を有する技術者</li> <li>2. メカトロニクス領域における自分の専門分野を限定せず、問題解決のための思考力と行動力を有する技術者</li> <li>3. 電子機器および機械装置の構成とそのシステム機能を俯瞰的に理解でき、システム構成機器設計の基礎能力を有する技術者</li> <li>4. 電子機器・機械装置の動力伝達機器やそのシステム、医療機械等の生体に係わる機器のいずれかに対し、その必要機能の構築とその機能モデリング、評価が可能な技術者</li> <li>5. 電気・機械、生体工学に関する基礎知識を有し、その応用能力を有する技術者</li> </ol> <p>より具体的には、下記の(1)から(10)の能力を有する人材の育成を目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)技術者として自立した倫理観と社会適応性を有し、物事を客観的に議論できる能力を有する技術者。</li> <li>(2)電子機器および機械装置から成るシステムの構成とそのシステム機能を俯瞰的に理解でき、システム構成の設計ができる基礎能力を有する技術者。</li> <li>(3)電気工学、電子工学、機械工学の基礎科目を理解し応用できる能力を有する技術者。</li> <li>(4)メカトロニクス、あるいはメカトロニクスシステム技術領域の製品技術を理解できる技術者。</li> <li>(5)電子機器・機械装置を用いた動力伝達機器やそのシステム、医療機器等の生体に係る機器のいずれかに対し、その必要機能の構築とその機能モデリング、評価が可能な技術者。</li> <li>(6)電気・機械・生体工学に関する基礎知識を有し、その応用能力を有する技術者。</li> <li>(7)メカトロニクス領域における自分の専門分野を限定せず、広く問題解決のための思考力と行動力を有する技術者。</li> <li>(8)機械や電気といった従来の学問領域に捕われず、諸分野にまたがる技術統合ができる技術者。</li> <li>(9)現状の社会的な要求のみではなく、将来必須とされる先駆的技術の育成も視野に入れ、広い分野で活躍できる技術者。</li> <li>(10)必要に応じて知識を自ら調べ、それを駆使できる技術者。</li> </ol>
社会基盤デザイン工学科	人間社会は、自然の猛威にさらされる一方、自然からさまざまな恩恵を受けて営まれてきました。特にわが国では、厳しくも豊かな自然環境を受容しつつ、安全で快適かつ持続的な社会を実現するために、社会基盤施設の整備と国土保全を図ることが求められています。社会基盤デザイン工学科は、環境や景観に配慮しつつ、防災上の観点にも立って地域社会を構想し、豊かな社会を支える基盤施設を構築できる、中核的な土木技術者の養成を目的としています。
環境創造学科	環境創造学科では、本学科の考える環境創造学のコンセプト(環境の心、自然の論理性の把握、環境の保全と復元・改善、自然との共生、環境創造)に基づいて教育を行い、環境に携わる技術者・研究者の養成を目的とします。このために専門科目として幅広く、自然環境、都市環境、住環境に関連した科目群を配置し、教育・研究を行います。

環境創造工学科	<p>理工学部環境創造工学科は、わが国が目指す「持続可能な経済社会システムの構築」に貢献するため、環境に最も影響の大きい「エネルギー・資源循環」、自然環境に関する諸問題を扱う「環境共生」、生活環境など人間活動に直接的に関わる諸問題を取り扱う「人間活動環境」の観点から、新しい学問分野として下記の5つの柱からなる「環境創造工学」を掲げ、これらの柱を基本とした教育を行い、環境に携わる技術者・研究者の養成を目指します。</p> <p>「環境創造工学」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境に配慮した生活態度と環境問題を発生させない心構えを醸成させる。(環境の心)</li> <li>②エネルギー・資源の有効利用に取り組む。(エネルギー・資源問題の解決)</li> <li>③良好な環境の保全と悪化した環境の復元・改善に取り組む。(環境の保全と復元・改善)</li> <li>④自然との調和を図る。(自然との共生)</li> <li>⑤新しい環境システムを創出する。(環境創造)</li> </ol>
建築学科	<p>建築学科では、工学性と芸術性をもつ優れた生活環境や文化的環境の空間原理を追求し創造する術を学び、「ものづくり」に感動できる教育を実現します。カリキュラムは学生の知的好奇心を刺激し、建築技術者や建築家として必要な基礎知識や新しい高度な建築技術を追求する意欲と、人間や社会との関わりについての深い洞察力と高度な見識を身につけ、建築分野が担うべき社会的な役割に貢献しうる人材の育成を目指しています。</p>
農学部	<p>農学部は、生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成を目的とします。</p>
生物資源学科	<p>生物資源学科は、生物資源の生産、開発および利用に関わる専門知識と技術をもとに、広い視野と論理的な思考により、農と食の分野において地域から国内外に至る社会の持続的な発展に貢献できる、人間性豊かな人材を養成します。</p>
応用生物化学科	<p>応用生物化学科は、化学を基盤とした生命現象・食品機能・生物制御機構の解明と応用に関する専門知識、論理的思考力、実践力、倫理観を有し、バイオテクノロジー・食品・医薬品・化粧品・健康・医療関連産業、教育、行政などの分野において国内外で広く活躍できる専門家や指導者の養成を目的とします。</p>
生物環境科学科	<p>生物環境科学科は、生物をとりまく環境問題を地球規模で捉え、生物と人と自然が調和した持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成します。</p>
薬学部	<p>薬学部は、薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成を目的とします。</p>
都市情報学部	<p>都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とします。</p>
人間学部	<p>人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動力を備えた人材の養成を目的とします。</p>
外国語学部	<p>外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバル化が深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材</li> <li>②アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材</li> <li>③日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材</li> </ol>

情報工学部	情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的とします。
情報工学科	<p>産業や社会の様々な分野で情報技術者として活躍できるように、情報数学、コンピュータ基礎、プログラミングなどの「情報処理技術の基礎」を修得した上で、以下の4つのプログラムを通して、1つ以上の応用分野に関して体系的に修得し、かつ、自らが解決すべき課題を理解し、解決策を探索し、実践できる能力を身につけた人材を後述の異なる視点で編成された2つのコースで育成します。</p> <p>①プログラム</p> <p>(1)フィジカルコンピューティングプログラム:情報を実体化する分野を扱う。情報を取得するためのハードウェアとそれを利用するためのソフトウェアについて、その両方の仕組みが理解できる。</p> <p>(2)データエンジニアリングプログラム:情報を処理する分野を扱う。基本ソフトウェアをはじめとするソフトウェアの原理や、情報管理、アルゴリズム、知識情報処理の方法論が理解できる。</p> <p>(3)ヒューマン・メディアプログラム:情報を表現する分野を扱う。画像・音・言語などのメディアから情報を抽出する仕組みや、それらを加工して利用する方法が理解できる。</p> <p>(4)ネットワークシステムプログラム:情報を交換する分野を扱う。伝送路を介して情報を高速に伝える方法や、ネットワークを介して情報を確実、かつ安全に交換する仕組みが理解できる。</p> <p>②コース</p> <p>(1)総合コース:自ら目指すプログラムを中心として、講義、演習、実験を通じてより深く体系的に情報工学の考え方や技術を学ぶ。</p> <p>(2)先進プロジェクトコース:講義等を通して体系的に学ぶことに加えて、実践的なプロジェクト(課題)を通じて実社会で利用されている情報工学の方法論や技術を体験的に学び、そこから情報工学の考え方や技術を会得する。</p>